



～もっと地域と もっと地域へ～

かがやくえがお

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

第14号

令和8年 7月 8日
長崎市立小島小学校
校長 桐山 充晴

いよいよ7月も2週目となり、子供たちの登校日数も「あと7日」です。昨日からは「個人面談（保護者の方と）」もスタートし、御足労いただき感謝いたします。

まもなく、子供たちが楽しみにしている夏休みです。すでにいろいろな計画が立てられているところもあるかと思いますが、何よりも「安全第一」そして、心にたっぷりと栄養を注ぎ込むことができる夏休みであってほしいと願っています。そのために学校では、保護者の方との面談だけでなく、子供たち個人で1学期の生活を振り返らせたり、安心して夏休みに入ることができるように「子供との個人面談」も実施したりします（成長や課題の確認に加え、悩みや困りごとが少しでも解消できるようにという目的です。）。御家庭でも気になることがありましたら、遠慮なくお知らせください。

雨の日の登下校に安全を願う

例年、梅雨末期には、それまで以上に激しい雨が降る傾向にあるようです。「長崎大水害」も44年前の出来事ですので、あの時の怖さが記憶にある保護者の方はほとんどいらっしゃらないと思います。水の力はあなどれません。

小島小学校は、現在プレハブ校舎ではありますが、安全対策は施され、体育館は避難場所にもなっています。子供たちが学校にいる間は安全に生活することができます。心配なのは、登下校です。以前お配りした「かがやくえがお第9号（災害対策号）5月29日付」に『大雨（避難情報）に伴う学校対応について』や「登下校ガイドライン」を記載しておりますので、今一度御確認いただければと思います。

また、「teturu」で、子供たちの登下校に関する連絡を送信する場合があります。機種変更等で受信設定が完了できていない御家庭がないようにしていただければと思います。



してあげる喜び ～夏休みを前に考える～

さて、子供たちの発達段階を考えたときに、「3種類の喜び」があると言われます。

まずは、例えば、まだ靴紐を結ぶことができないときに、お家の方に結んでもらえた喜び、「してもらった喜び」です。次に自分で靴紐が結べるようになった、「自分でできる喜び」です。最後は、うまく結べない友達に靴紐を結んであげたときの喜び、「してあげる喜び」です。

この「してあげる喜び」は、人間だけがもちうる感覚であり、喜びの中では最も大きいものだという説があります。

「してもらった喜び」は、それが継続すると薄れていってしまいがちですが、「してあげる喜び」は、どれだけ続けても色あせないという研究結果もあるそうです。「誰かの役に立ちたい」、「喜んでもらえることがしたい」、そんな気持ちを心の中で温め続けている人（子）を育てたいと思います。

そこで、もうすぐ始まる夏休みという長い期間を利用して、子供たちが「家族の役に立ててうれしい」と思えることを実践させてみてはいかがでしょうか。「お手伝い」ではなく「役割」として与えてみるのです。「お皿洗いは、私の仕事」、「お風呂掃除は僕の仕事」と、家族の一員としてその役割を果たすことで、家族に喜んでもらえる喜びを感じられる毎日を過ごすことができると思います。そうして育まれた「自己有用感」は、やがて「自己肯定感」へとつながっていきます。「喜び」で子供たちを育てていくことができるのも、とっても素敵ですよ。各家庭で「してあげる喜び」を感じられるように計画してはどうでしょうか。

余談ですが、私も子供のころは、家の中のことをいろいろとやっていました。時にはできそうにないことにチャレンジしたり、見よう見まねでやったりするのでうまくできないこともありました。しかし、そのたびに「上手ねえ」「すごいねえ」「ありがとう」「助かる」…とこれでもかというくらい褒められていた記憶があります。それで調子に乗って、「もっと頑張ろう」「あれもやってみよう」「よし明日も」となっていました。今考えると、かえって迷惑なこともあったのかもしれませんが、まんまと（上手に）やらされていたのかもしれない。